

教師力を身につけよう！

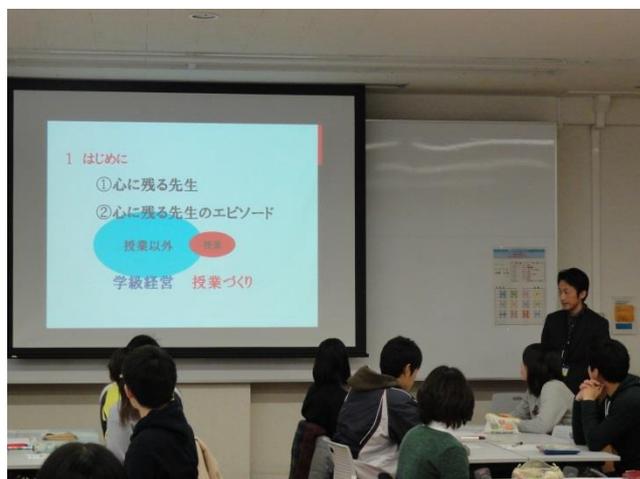
2015年度 第7回講座テーマ

2/10 (水)
13:30~

「魅力的な授業とは」
～ 毎日 悩みながら追い求めていること ～

岡山市立権多小学校教諭 遠藤 正和 先生

参加者が一丸となって、「魅力的な授業とは何か」を追い求めました。「5年後に素敵と思える良い授業」とはどのような授業なのかをイメージした後、その授業を実現するために必要な「教師の資質」について議論を深めていきました。その結果、教師が「その授業で育成すべき能力は何か、授業で何を学ばせたいか」というビジョンを描くことが重要であるとわかりました。また、指導法や専門的知識・コミュニケーション能力等、様々な資質能力を磨くことや、教師自身が前向きに努力する姿を見せることも、授業づくりの大切な手段であると学ぶことができました。



心に残ったエピソードは、ほとんど授業外。しかし、授業ををないがしろにしてはいけない。授業外は学級経営に関わる。授業とどちらが大切か。ウェイトはほぼ同等。

魅力的な授業→良い授業

ブレインライティング（グループワーク）

良い授業の条件とは！

この意見を参考に、「5年後の素敵な授業とは」プロジェクト発表

- ・子ども全体が主体的・意欲的に学ぶ空気に満ち溢れた授業
 - ◎みんなの発言に反応 お互いを認め合える空気 自発的にもっと知りたいと思える
- ・アクティブラーニングみたいな活動を取り入れることで子ども自身が自信がつくような授業
 - ◎自信がつくことで、間違いを恐れず発表しやすい環境が作れる。達成感から自分で学ぼうとする自主的な姿勢が身につく、学力アップにつながる。
- ・子どもたち自身が課題解決できる能力がつく授業
 - ◎社会に出てからも生きていく（必要な）力が身につく。コミュニケーション力が重要なので、活動に取り入れていく。
- ・子どもたちが積極的に参加できる楽しい授業
 - ◎楽しいという気持ちから意欲がわき興味がもて、積極的に授業を受けたいと思う。学校時間はほとんどが授業。楽しい授業の学校に行きたいと思う気持ちができる。
- ・子ども主体の分かりやすい授業
 - ◎一方的な授業はさせられる感があって楽しくない。子どもが不思議に思ったこと、疑問に思ったことを課題に挙げ、それに向け活動する。その後、達成感を味わえる、自信につながり意欲となるサイクルを作る。教師は要所所で助言をする。
- ・子どもワクワクとまらない！！～子ども主体的な授業～
 - ◎自主的な授業づくりをすることで、子どもが授業を楽しんでいることができる。その結果、一人一人の授業の内容理解の手助けをすることができるのではいか。
- ・子ども主体の授業 子どもの発想・疑問を尊重し、教師自身の知識の引き出しを使って授業を進めていく
 - ◎教えられるだけでなく、将来他者との関わりの中で自分で学んでいける力を付けるため。
- ・子どもが主役で学びを深めることができる授業
 - ◎授業を劇としてとらえる。子どもが主役、教師はわき役。子どもが主体だと授業を楽しむことができ、それが理解につながり、学びを深めることができる。
- ・子どもの笑顔が見られる授業
 - ◎笑顔になる時とは、授業中、理解できたり興味がわいたり発見したりした時。それがどんどん次につながっていくと考えたので。
- ・子どもが主体となって、活発に学び合う授業
 - ◎授業の目的として、全員が参加できるため。他の人と学びを共有することができるので授業が楽しくなり、楽しさから、子どもたちの意欲を引き出すことができる。
- ・子どもが主体的に課題に取り組み、面白く感動がある。全員が自信を持って自分の考えを持てる授業
子ども一人一人が輝ける授業
 - ◎卒業後、将来自分で課題を見つけて、そのために努力することができる。
 - ◎意欲を向上させること
 - ◎他者とのかかわりの中で生きていくことができる授業
- ・子どもの興味や意欲がわく授業。クラス全員が参加する授業。子ども同士が学び合える授業
 - ◎子ども一人一人に自分で考える力を付けることができる

5年後の授業を実現するために、教師に必要なこと あえてランキングを付ける

自分で確認 グループで確認

①多種多様な指導法

それぞれが解決能力を身につけるためには指導法を変えていく必要がある

指導法を理解しておくことが分かりやすい授業につながって、子どもにとって分かりやすい時自ら学ぼうとする

◎いろいろな指導法を知っていることは強みであり、引き出しが多い方が良い

②教材研究

教材のどこが重要でどこがつまづきやすいのか把握することで授業の流れを考えると、子どもが自主的に参加できる授業ができる

どんなに寄り添う気持ちがあったとしても、正しい知識を教えなければ意味がないと思うし、それをどのようにして子どもに伝えるかとかどのようにして興味を持たせていくか考えるため

子どもの興味を引き付ける方法、子どもが進んでやりたい教材は何なのかを考えることは子どもが楽しんで授業をするために必要。授業の内容を子どもにとってより良い内容にするためにどんな工夫が必要か考えることが大切

◎教材研究は即答が多い解答。では、何をすればよいのか。子どもの思考の流れを考えること。その授業の最終地点の姿・授業の在り様を描くこと。指導法も研究も目的に向かうための手段である。指導法の完成がゴールではない。様々な指導法で学力アップを目指しているが、子どもが授業の主体であるため目当てを持って目当てに向かうために自力解決をし、友達と考えを交流する中で練り上げていって、更に身につけた力を使って活用・応用する。授業を自分自身で振り返ってまとめる。授業がゴールでもない。何のためにその授業を目指しているのか。なぜその授業が必要なかを忘れてしまっては、どんなに指導法を学んでもどんなに教材研究しても途中で終わってしまう。目的があることを忘れずに、どんな子どもたちの姿を描けているのか。想像できているのか。目的を大事にしたい。目的を描くことを大切にしたい。その目的とは「今」の目的である。時期によって変わる。授業はまさしく学級経営。休み時間にすることも授業時間にすることも目的さえ揃えて行けばほぼ近づけた学級経営ができるのではないかな。

授業で自分の考えを持って主体的に動ける子と休み時間に主体的に動ける子は一緒。授業と学級経営は、教師がねらいを持っていたらリンクして作っていける。

大切なのは、育成すべき資質能力。何ができるようになるかをはっきりし、そのためにその授業で何を学んでいくのか。アクティブラーニングをすればゴールではなく、アクティブラーニングをすればどんな力が身につくのかを頭に描いておく。アクティブラーニングを意味あるものにしていくためには、何を狙うのかそのために授業に何を求めるのか

③専門的な知識理解

教科の専門性が身につけていなければならぬ。専門的な知識があればどんな教材研究にも生かすことができる。知識があれば子どもの意見や疑問を基にその学びとか授業につなげることができる。いつ授業を任されても、その知識で授業ができる。

④コミュニケーション能力

専門的知識や指導法も大切だが、一人の人間として根底になくってはならない。これがあれば寄り添える。

◎一人でできることには限りがある。専門を持つことは大事だが、できないことは他の先生の力を借りればよい。

子どもは教師の鑑。子どもの課題は教師の課題。クラスの課題は担任の課題。社会や保護者や同僚のせいにならない。バランスが大事なので抱え込みはしない。休職の一番の悩みは生徒指導。子どもとのコミュニケーション。人脈こそ宝。

⑤子どもの気持ちに寄り添う

子どもの発言をうまく使って授業をするために、子どもがどういう意図でその発言をしたのか考える。子どもの気持ちを尊重すること。子どもの思考を読む力は欠かせない。心に残る教師はこれ。

⑥経験

失敗を糧に換える

⑦笑顔

クラスの雰囲気が必要。教師自身が笑顔でいることでクラスが明るくなり、子どもも意見を言いやすくなる。安心感があり、教師との信頼関係を築ける。笑顔は無敵。

3か月後にできる限り指示はしたくない。子どもが主体的に動く環境を授業でも授業外でも作っていく。

人生を変える可能性がある大切な職業

子どもの前に立つ大人として 魅力的な授業が実現している人はほとんどいない。必要な条件はまだまだある。年間 1000 時間。だからといって、あきらめてよいのか。スピーチで夢を語る。総合でキャリア教育。英語で夢を語る。6 年生は夢、目標、ビジョンを描いて生きていこう。その姿が尊いと考えているから。では、教師が夢を描かなくていいのか。難しくてもそこに向かって努力する姿を見せていく。